

夢のつばさ♥プロジェクト 2020年度 事業報告書

2020年4月1日～2021年3月31日

1. キャンプ・交流会

新型コロナウイルスの蔓延のため、2020年初より計画していたキャンプ活動及び東北で行われる交流会が中止になり現在に至っている。例年、年度末3月に実施する交流会も中止を決定し、2020年度は、従来のような対面でのキャンプ及び交流会は開催実績なしとなった。

こうした状況下で、オンラインなどによる交流活動が開始され、子どもたちや保護者との交流会や懇談会もオンラインで行われている。

第1回 オンライン交流会	2020.8.23	オンラインにて開催する初めての交流会。 インターネットを使った交流の解説やそこに至る経緯、Zoom導入の説明などについて、郵送物を通して各家庭へお知らせを行ったうえで開催。 子ども14名を合わせ35名が参加。近況報告や実施が始まったオンライン企画の説明を行った。画面を見て行うゲームなどを楽しんだ。
オンライン 保護者懇談会	2020.10.17	近況報告、オンライン企画について解説を行い、子どもたちの反応を伺った。保護者の方も楽しめる企画になっているという感想・評価をいただき、和やかに話が進んだ。参加者は4名とまだ少数だが、保護者同士も久しぶりに楽しんだ。 遠隔地（秋田県に移動）の保護者の方も初めて参加され、オンラインで集うメリットが感じられた。秋田からは、奥多摩迄、移動にほぼ半日かかる為、これまで秋田出身の学生・OBが帰省を兼ねて送迎を担当しており、社会人事務局スタッフも保護者の方と電話でしかお話ししたことがなかった。
第2回 オンライン交流会	2021.1.16	中学生は学校行事、部活動等の為に、週末の昼も参加しにくいという意見を入れ、低学年向け15時～17時のほか、20時～21時にも実施。子ども8名を含め30名が参加。 すごろくトーク（すごろくを振って進み、お題に合わせておしゃべり）、フリートーク等。社会人OBも参加し、久しぶりに顔を見ての活動となった。

2. 新規の活動

2020年春以降、夢のつばさの恒例の行事は実施できず、顔を合わせるができなかった。学校も5月連休まで休校が続いて、子どもとスタッフ双方とも不安で寂しい日々が続いた。ちょうど『夢のつばさの活動は、2020東京オリンピックの開催の夏には（株）ブリヂストンの奥多摩の保養所利用をご遠慮して、東北開催をめざす』と決定していた中で、キャンプの実施自体をあきらめる状況ともなり、子どもたちから、夢のつばさの活動はどうなるのか、なくなってしまうのではないかという問い合わせも届いた。

大学生やOB/OGたちは、新入生の勧誘もままならない中で、子どもたちにヒアリングを行って、その交流の手立てを探り、従来の誕生日のカードや手紙・新聞送付に加えて、ZoomやYouTubeなどのイ

インターネットツールを活かした交流活動の企画提案を行った。これを受けて社会人スタッフは、インターネット活用の必要性和有益性も認めつつも、保護者の方々の中に、インターネットになじみのない方もあること、また、保護者が知らない世界から子どもへの誘惑があるかもしれないという警戒感もあるだろうことを慮って、検討を重ねた。そして『インターネットスキルに慣れ親しむことは、子どもにとっても有益であろう。信頼できる仲間の中でインターネットの活用の仕方、避けるべきこと、危険から自分を守ることを学び合える機会を持つことは、保護者の不安への対応ともなり推奨できる』という結論に至り、保護者の方へ十分な説明を行い、検討作業を続けながら、インターネットによる活動を進めることを決めた。現在、オンライン上での勉強会やDJ風のラジオ番組などが行われている。

インターネット環境を整備できない家庭に対しては夢のつばさから支援を行えるよう準備している。

（1）オンラインもくもく会

週に1回、土曜日はあるいは日曜日にZoomを用いた勉強会を実施している。会の最初にこの時間の自分の目標をZoom上で宣言し、45分間はそれぞれ集中して黙々と学び、最後に目標がどれくらい達成できたかを報告し合うという企画である。これにより、①それぞれの目標に向かって時間を決め集中して取り組むことで、目標に向かって努力・達成したという自信がつくこと、②仲間といっしょに頑張る中で、人とのつながりや安心を感じられることを目指している。子どもたちからは「普段あまり勉強しないけれど、こういう機会があったからきちんと勉強できた！」「みんなとだから集中できた！」という声が届いている。

（2）夢のつばさスタディ

夢のつばさの学生有志はこの数年、高校受験生、大学受験生となった子どもに、大学生数名がチームを組んでボランティアで勉強を教える、夢のつばさスタディという個人指導を行ってきた。そうした中で、子どもたちには受験の際になってようやく勉強しなければならないと思うのではなく、普段から学びに興味を持って欲しい、大学生にいろいろな質問をぶつけて欲しい、という思いを深くしている。そこでこの機会にと、大学生が土曜日のもくもく会の後半の時間に「学問の楽しさを知ってもらうこと」を目指して、様々な内容の講義を行っている。これまで「地図上から見える世界史」「数列 QUIZ」「外国語のコトバって楽しい！」「みんな元素でできている」「確率を楽しもう」「片手で31まで数える方法」など意欲的なプログラムが行われている。

また、（1）、（2）については、夢のつばさプロジェクトの公式LINEを用いて、勉強に関する質問を随時受け付けており、利用した子どもたちからも好評である。

（3）夢のつばさラジオ

土曜日の20時～約20分間、学生・OBラジオチームがパーソナリティとなり、YouTubeチャンネルを利用してゲストとのトークを配信している。大学生の声を聞いたり顔を見たりして、会えない間も夢のつばさの雰囲気を感じられるように、そして大学生・OB/OGの想いが伝わるように工夫している。

（4）交換日記

このように現在はオンラインでの企画を続けているが、保護者の方の中には、ご自身がパソコンや携帯などでインターネットを使っていらない方もあり、またまだ小学生低学年でスマホは早いとお考えの保護者もいちゃって、オンライン企画に参加できない子どももいる。こうした家庭に対し、社会人スタッフは大学生に働きかけ、子どもたちと学生・OB/OGが数名のグループとなって手紙の交

換を行う企画を提案した。参加を募ったところ、大勢から希望があり、2020年12月現在、子ども13人（小学生5人、中学生7人、高校生1人）が、子ども1人あるいは2人と複数名の大学生スタッフ（総勢20名）からなるグループを作って、交換日記を始めている。開始にあたっては、だれかを傷つけるようなことは書かないこと、根拠のないうわさなどが独り歩きしないよう心を配ること、個人情報を守ることにについて重々認識し、外部の方に見せたり、持ち歩いたりして紛失しないようにすることなどのルールを決めた。

オンラインでの企画は、子どもたちの日常が部活や塾などでとても忙しく、開催時間設定も難しいなどの課題も見つかって企画の刷新を進めているが、交換日記は順調に進んでおり、多くのスタッフと子どもが楽しんで参加している。Webのカメラを通して顔を見てのつながりもさることながら、実際に日記ノートが手から手ににわたり、仲間が書いた文が届くことの安心感、自分の投げかけに対して相手の返信を待つという期待が心をつなぐということに、スタッフも気づかされている。「SNS上では話さないような話ができるので新鮮」という声がスタッフからも聞かれている。

（5）「夢のつばさプロジェクト10年間の歩み」作成

総括内に記載

3. 総括

東日本大震災後10年目の活動は、このように団体内での活動に終始したことから、本年度後半は、夢のつばさの10周年を記念したまとめを作ることに注力した。現在、記念誌は印刷製本段階にあり、完成の暁にはこれまでこの活動を支えて下さった方々、毎年事業報告を行う東北各地の教育委員会等へ郵送配布の予定である。この記念誌には、本活動を開始するに至った経緯、10年間の活動記録、現在進められている企画の紹介、学生／スタッフの文章などと共に、支援の方々からのご寄稿もいただいてまとめることができた。当初の計画にはなかったことではあったが、コロナ肺炎蔓延のための活動自粛状況下で、10年目という振り返りができたことは一つの成果となったとも考えている。子どもたちも成長した姿の見える文章を寄せ、スタッフ一同、本プロジェクトの持つ意義を再認識し、活動を成り立たせてくださった方々への感謝の念を新たにしている。

2019年度には、新しく5名の小学生が夢のつばさの活動に参加した。その子どもたちは、本年度現在の活動にまだなかなかなじんでいない。オンラインでの活動は、よく気心の知れた仲間の中では機能するが、新しい仲間づくりには向いていない。せっかくの参加の機会を失ったのではないかと気がかりである。本年度、夢のつばさプロジェクトの従来のような活動を行うことが出来なかったことは、仕方のないこととはいえ、子どもたちの支援にとって大きな痛手であり、このような状況下で、対面での触れ合いの重要性を再認識することになった。少しでも早くキャンプを再開し、そうした子どもたちも含めて、活動できることを願っている。今後も状況を見ながら、子どもたちへの丁寧な働きかけを重ねていきたいと考えている。